

# 都議会議員のイデオロギーは知事評価に影響を与えるのか

2026年2月15日

## 1. 研究テーマ

本研究は、都議会議員による現職東京都知事の評価が、議員自身の政治的イデオロギーによってどの程度説明されるのかを実証的に検証することを目的とする。一般に、政治家や有権者による政策評価は、評価対象そのものだけでなく、評価する側の政治的立場によっても大きく左右されると考えられている。特に東京都のように政治的多様性が高い自治体においては、同一の政策や行政運営であっても議員の立場によってその評価が分かれる可能性がある。

そこで本研究では、「都議会議員が現職知事をどのように評価しているのか」、そして「その評価は議員自身の政治的イデオロギーによってどの程度説明できるのか」という問いを設定する。具体的には、都議会議員による知事評価（0～10の数値尺度）を従属変数とし、議員本人の自己認識的イデオロギー尺度（0＝リベラル～10＝保守）を独立変数として分析を行う。

議員の政治的立場は、政策を評価する際の基準や重視する政策領域を規定すると考えられる。そのため、知事の政策的立場が議員のイデオロギーと一致している場合には評価が高まり、反対方向に位置している場合には評価が低くなると予想される。本研究は、このようなイデオロギーと評価の関係をデータに基づいて検証し、知事評価がどの程度イデオロギーによって体系的に説明されるのかを明らかにすることを旨とする。

## 2. 背景

本研究の問題関心は、政治的評価がどのような要因によって形成されるのかという、政治行動研究における基本的な問いに由来する。従来の研究では、有権者の政党支持や政策評価は、その人自身の政治的イデオロギーと強く結びついていることが指摘されてきた。

例えば、白崎（2015）は、有権者の自己イメージとしての保守・革新意識が政党への感情温度に与える影響を分析し、おおむね「保守派は自民党を支持し、革新派は民主党を支持する」という対応関係を確認している。ただしその関係は世代によって異なり、

若年層ではイデオロギーと政党評価の対応が必ずしも単純ではないことも示された。これは、イデオロギーと政治評価の関係が一定ではなく、条件によって変動する可能性を示唆している。

また、秦 (2015) は、イデオロギーが政治参加にどのように作用するかを検討し、極端なイデオロギー層では自身の強い意見保有が政治行動を促進する一方で、中道層では動員など外部要因が重要になることを示した。さらに秦・Song (2020) は、有権者が政党のイデオロギー位置を推論する際、一部の象徴的な争点に強く引きつけられることを明らかにしている。これらの研究は、有権者にとってイデオロギーが政治評価や行動を規定する重要な枠組みであることを示している。

しかし、これらの研究の多くは有権者を対象としており、政治家、特に地方議会議員の評価行動に焦点を当てた研究は多くない。議員は単なる「一個人」としての政治的信念を持つ存在であると同時に、「選挙区民の代表」としての役割も担っている。そのため、議員の知事評価が自身のイデオロギーと直結しているのか、それとも代表者としての立場から選挙区の利益を優先した判断がなされているのかは、必ずしも自明ではない。

本研究は、この点に着目し、有権者に見られるイデオロギーと政治評価の結びつきが、議員にも同様に当てはまるのかを検証する。すなわち、「議員＝有権者」とみなせるのか、それとも「議員＝代表者」として独自の判断を行っているのかを明らかにすることが、本研究の理論的背景である。

### 3. 仮説

本研究では、都議会議員の政治的イデオロギー（リベラルー保守）と、現職東京都知事に対する評価との関係について、以下の仮説を設定する。

#### 仮説 1（議員＝有権者仮説）

議員の政治的イデオロギーは、知事評価に有意な影響を与える。具体的には、知事の政策的立場と近いイデオロギーを持つ議員ほど知事を高く評価し、反対方向に位置する議員ほど評価は低くなる。

この仮説は、有権者研究で示されてきたイデオロギーと政治評価の結びつきが議員にも当てはまるという前提に立つものである。もしこの仮説が支持されれば、議員もまた

自身のイデオロギーに基づいて評価を行っている」と解釈できる。

#### 仮説 2（議員＝代表者仮説）

議員の政治的イデオロギーは、知事評価に強い影響を与えない。

この仮説は、議員が選挙区民の代表として行動している場合、自身のイデオロギーよりも地域利益や党内戦略など他の要因が評価を規定する可能性を想定するものである。もしイデオロギーの効果が弱い、あるいは統計的に有意でない場合、議員は単なる有権者とは異なる評価ロジックを持っていると考えられる。

### 4. データ、変数、分析手法

#### 1) データ概要

前節で提示した仮説を検証するために、本稿では津田塾大学中條研究室が 2024 年 9 月末から 11 月にかけて実施した第 7 回都議会議員調査のデータを使用する。本調査は、調査開始時点で在職していた都議会議員 123 名を対象として行われた。調査方法は郵送法を採用し、回答は郵送に加えて Web 上での回答も受け付けた。その結果、70 名（郵送 23 名、Web 47 名）から回答を得た。回収率は 56.9% である。分析には、現職東京都知事の評価（Q1）および議員自身の政治的イデオロギー（Q11）の双方に有効回答を行った議員のみを対象とした。なお、本研究で使用する設問について無回答であったケースは分析から除外した。

本研究の目的は、議員の政治的イデオロギーが知事評価に影響を与えているかを検証することであるため、現職東京都知事の評価を従属変数（y）、議員自身の政治的イデオロギーを独立変数（x）として分析を行う。

#### 2) 変数

Q1 は、「現在の東京都知事の仕事ぶりについて、0（全くやっていない）から 10（とてもよくやっている）とするとあなたの評価は難点でしょうか」の 11 件尺度で回答したものである。値が大きいほど、知事に対する評価が高いことを意味する。本研究では連続変数として扱う。記述統計は表 1 の通りである。平均値は 5.53 であり、尺度の中間値付近に位置している。しかし、図 1 に示すヒストグラムを確認すると 0 付近と 8～

10 付近に回答がやや集中しており、評価がやや二極化する傾向も確認できる。

表 1：都知事評価（Q1）の記述統計

変数	平均	分散	標準偏差	最小値	最大値
知事評価(Q1)	5.53	9.84	3.14	0	10

知事評価(Q1)の分布

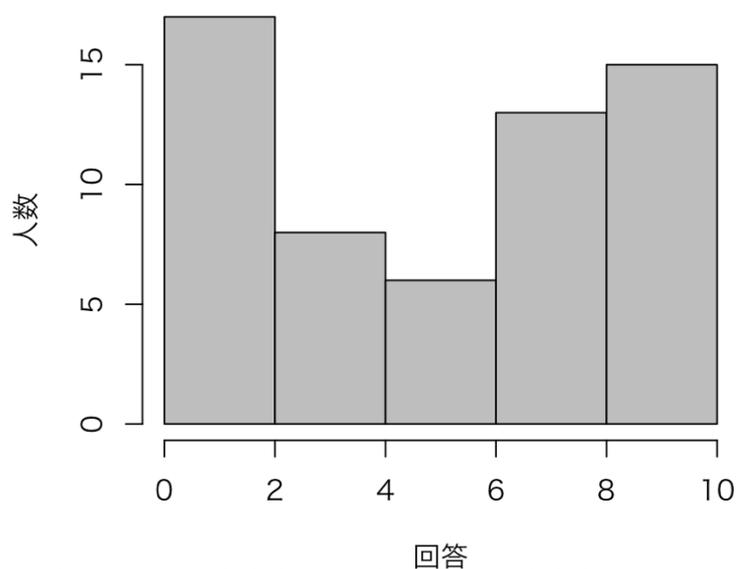


図 1：都知事評価の回答の分布

Q11 は、「異なる政治的立場を表すとき、『保守』と『リベラル』、あるいは『右派』と『左派』などと表現することがあります。最も右派・保守的な立場を 10、最も左派・リベラルな立場を 0 とした場合、あなたの政治的立場に最も近い数字をお答えください」と尋ねたものである。値が大きいほど保守的、小さいほどリベラルであることを意味する。こちらも連続変数として扱う。記述統計は表 2 の通りである。平均値は 5.02 であり、尺度の中間付近に位置している。しかし、図 2 に示す Q11 のヒストグラムで分布を見ると中道に集中しているというよりも、やや保守側に回答が多く分布しつつ、リベラル側にも一定数が存在しており、回答は一様ではない。

表 2：議員自身の政治的イデオロギー（Q11）の記述統計

変数	平均	分散	標準偏差	最小値	最大値
イデオロギー(Q11)	5.02	7.94	2.82	0	10

イデオロギー(Q11)の分布

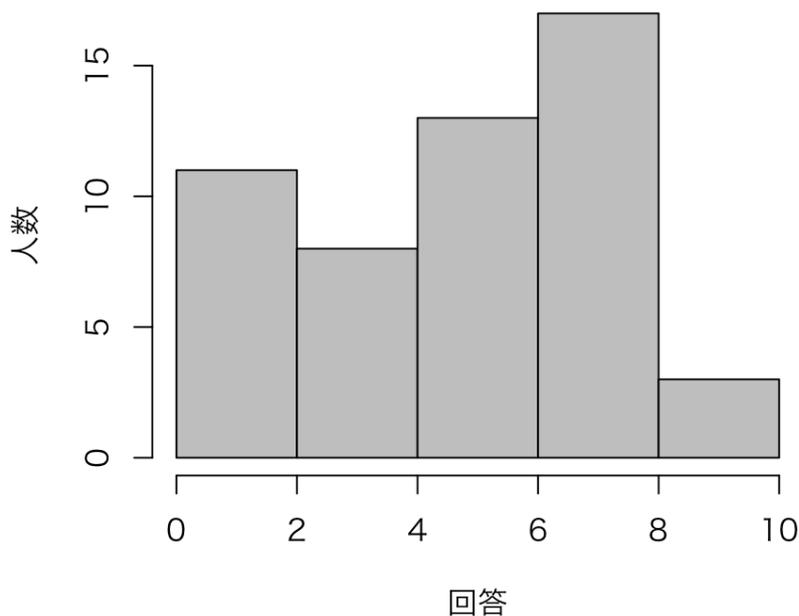


図 2：政治的イデオロギーの回答の分布

### 3)記述的關係

イデオロギー（Q11）と知事評価（Q1）の關係を表す散布図を図 3 に示す。散布図を確認すると、右上がりの傾向がみられる。すなわち、保守的であるほど知事評価が高い傾向が視覚的に確認できる。また、Q1 の 0～5 を「低～中評価」、6～10 を「高評価」、Q11 の 0～5 を「リベラル～中道」、6～10 を「保守」のように、両変数を二分化したクロス表を表 3 に示す。

この結果から、リベラル～中道層では知事評価が低～中程度に集中しているのに対し、保守層では高評価が多数を占めていることが分かる。これは、議員のイデオロギーと知事評価の間に關係がある可能性を示唆している。

### イデオロギーと知事評価の関係

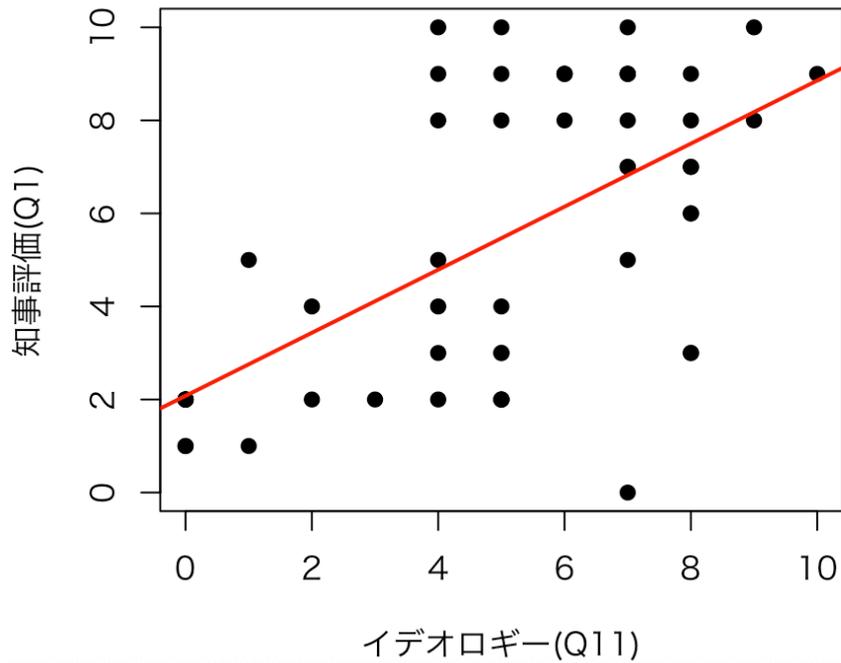


図3：イデオロギーと知事評価の関係を表す散布図

表3：イデオロギーと知事評価のクロス表

	低～中評価	高評価
リベラル～中道	22	6
保守	4	20

#### 4)分析手法

本研究では、まずヒストグラムおよび散布図を用いて変数の分布および相関関係を視覚的に確認した。そのうえで、イデオロギー（Q11）が知事評価（Q1）に与える影響を検証するため、回帰分析を用いる。回帰式は以下の通りである。

$$\text{知事評価}_i = \beta_0 + \beta_1 \text{イデオロギー}_i + \varepsilon_i$$

ここで、 $\beta_1$ が正で統計的に有意であれば、「議員＝有権者仮説」が支持される。有意でない場合は、「議員＝代表者仮説」が支持される可能性がある。

## 5. 結果

本研究では、議員の政治的イデオロギーが知事評価に影響を与えるという仮説を提示した。具体的には、保守的な議員ほど知事を高く評価し、リベラルな議員ほど評価が低くなると予想した。この仮説が妥当であるならば、まずイデオロギーと知事評価の間には正の相関関係が確認されるはずである。また、両変数を高低の二群に分類した場合においても、統計的に有意な関連が認められることが期待される。さらに、回帰分析を行った際には、イデオロギーの回帰係数が正の値を示し、かつ統計的に有意となる結果が得られると考えられる。

まず、相関係数について述べる。Q1（知事評価）と Q11（イデオロギー）の相関係数は $r=0.601$ であった。これは中程度からやや強い正の相関を示している。すなわち、保守的であるほど知事評価が高くなる傾向が明確に確認された。

次に二分類分析を行う。イデオロギーと知事評価をそれぞれ「低～中」と「高」に二分類し、クロス表を作成した結果、リベラル～中道では低～中評価が多数で、保守では高評価が多数であった。 $\chi^2$ 検定の結果（ $\chi^2=17.41$ ,  $df=1$ ,  $p<.001$ ）、イデオロギーと知事評価の間に統計的に有意な関連が存在することを示している。

最後に、単回帰分析の結果を表4に示す。回帰係数は正であり、統計的に有意であった。これは、イデオロギーが1ポイント保守側に移動すると、知事評価が約0.68ポイント上昇することを意味する。また、 $R^2=0.361$ であることから、イデオロギーは知事評価の約36%を説明している。

表4：単回帰分析の結果

変数	係数	標準誤差	p 値
切片	2.08	0.73	0.0065
イデオロギー (Q11)	0.68	0.13	0.00000245
$R^2$	0.36		
調整済み $R^2$	0.35		
観測数	52		

## 6. 結論と含意

本研究の出発点は、「議員のイデオロギーは知事評価に影響を与えているのか」という疑問であった。分析の結果、相関分析で中程度以上の正の相関が確認され、 $\chi^2$ 検定で有意な関連が示され、回帰分析で有意な正の効果を確認された。これらのことから、本研究の仮説は支持されたと結論づけられる。すなわち、保守的な議員ほど知事を高く評価する傾向が統計的に確認された。

本研究の結果は、地方政治においてもイデオロギーが重要な判断基準として機能していることを示唆している。しばしば地方政治は政党色が弱く、イデオロギー対立が小さいと言われるが、本分析は、少なくとも議員レベルでは政治的立場が評価行動に明確な影響を与えていることを示している。

課題として、本研究は単回帰分析に基づいており、他の要因を統制していない。今後は、政党所属、性別、当選回数、委員会所属、知事との政治的距離などを加えた多変量分析を行うことで、より精緻な検証が可能になる。

## 参考文献

- 白崎護. (2015). 「有権者の政策選好とイデオロギー」『静岡大学法政研究』第20巻第1号. p.13-40. <https://doi.org/10.14945/00009129>
- 秦正樹. (2015). 「いつ、イデオロギーは『活性化』するのか? : JGSS-2003を用いた投票外参加の規定要因に関する分析」『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』15. pp.85-96.  
[https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res\\_monographs.html#15](https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_monographs.html#15)
- 秦正樹・Song Jaehyun. (2020). 「争点を束ねれば『イデオロギー』になる?—サーベイ実験とテキスト分析の融合を通じて」『年報政治学』71巻1号 p.1\_58-1\_81.  
[https://doi.org/10.7218/nenpouseijigaku.71.1\\_58](https://doi.org/10.7218/nenpouseijigaku.71.1_58)